

## (8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鋳工業生産は一時的な要因もありおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は基調として改善している。

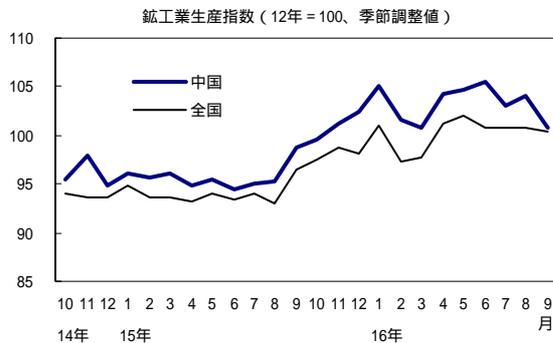
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 16 年 8 月）	今回（平成 16 年 11 月）	
住宅建設	おおむね横ばい	大幅に増加	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は一時的な要因もありおおむね横ばいとなっている。

化学は、原材料価格が上昇しており、生産調整している商品も出ていること等から、減少している。鉄鋼は、アジア向け、国内の自動車・造船・工作機械向けが堅調であるが、台風により設備が被害を受けたこと等により、減少している。輸送機械は、高水準の輸出が続いており、国内販売も好調であるため高操業であるが、台風による工場一時停止等の影響で減少している。一般機械は、アジア向け産業機械や自動車向け工作機械に動きがあるものの、全体では減少している。電子部品・デバイスは、携帯電話・デジタル家電向け液晶素子・半導体等が好調で、増加している。



(備考) 平成 16 年 9 月の中国は速報値。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
化学	17.6	0.7	5.3	4.1	1.3
鉄鋼	12.1	2.7	4.9	6.2	5.3
輸送機械	12.0	8.3	8.0	11.6	20.7
一般機械	10.4	6.7	10.8	9.9	5.3
電子部品・デバイス	7.6	9.2	11.7	12.3	-
鋳工業	100.0	2.2	2.1	3.6	2.1

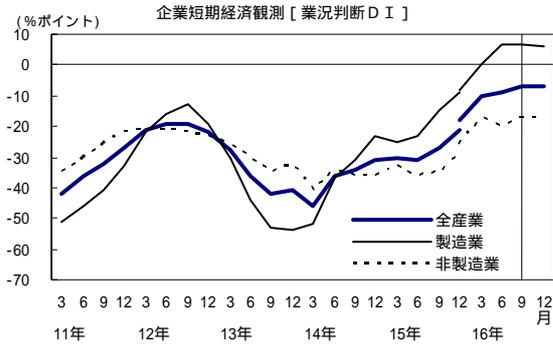
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 7～9 月期は速報値。

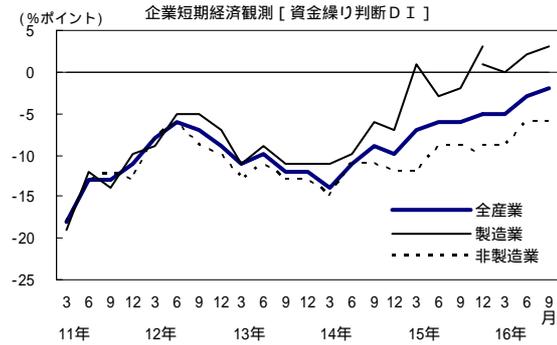
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅がおおむね横ばいとなっている。

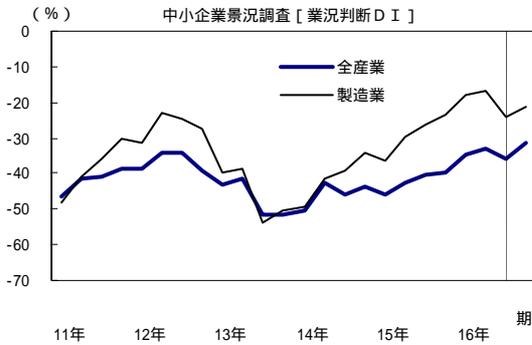
企業短期経済観測調査 [ 業況判断DI、資金繰り判断DI ] 及び中小企業景況調査 [ 業況判断DI ]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [ 企業動向関連 (現状判断) ]

「家賃、賃貸料の管理をしている管理業者による家賃の滞納が一向に減らない。家賃が払えない人が多いためではないかと推測される (不動産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

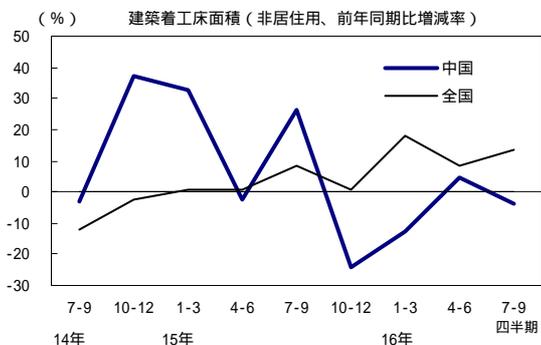
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (9月調査) ]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度概
全産業	24.3	13.0(2.3)
製造業	52.5	13.5(3.6)
非製造業	4.1	12.4(0.3)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



(8) 中国

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

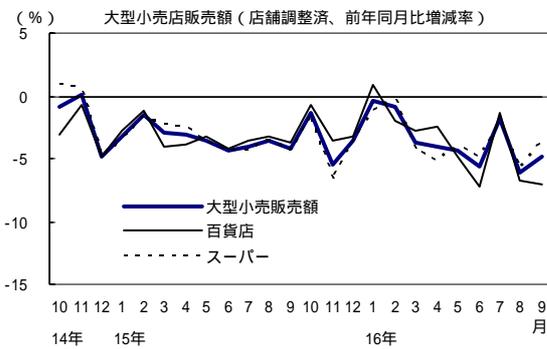
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は猛暑で夏物商品の売上が伸びたものの、逆に来店客数は台風の影響等で伸び悩んだ。8月は台風16号上陸により客足が遠のき、臨時休業もあったため前年を下回った。9月も台風18号上陸による臨時休業があり、売上が落ち込んだ。なお、日本百貨店協会によると、中国地区の10月の売上高は、前年同月比で6.3%減となっている。

スーパーも、猛暑による関連商品は好調であったものの、台風上陸による天候不順等で、総じて低調となっている。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

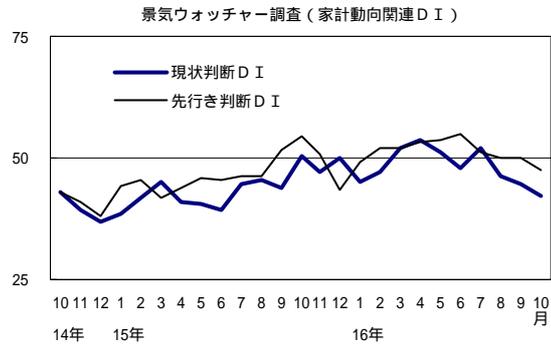
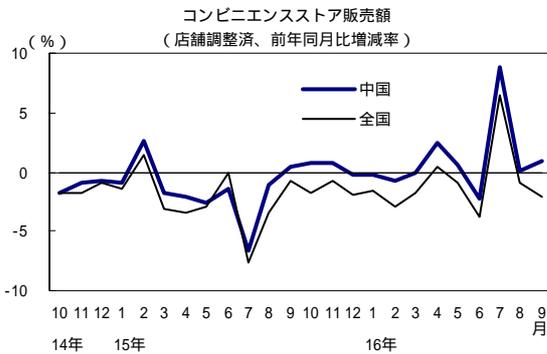
「台風のため野菜の高騰が続いており、販売数は増加していないが、売上額が20%増加で推移している。しかし、原油高のため自家発電経費が30%増加になっており、売上は伸びてきているが、経費増を勘案すると、どちらとも言えない状況である(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.5	1.7	4.7	4.2
百貨店	2.6	1.2	4.8	4.7
スーパー	4.1	2.0	4.7	3.8
コンビニ	0.4	0.4	0.3	3.2
景気ウォッチャー	49.3	48.1	50.9	47.7

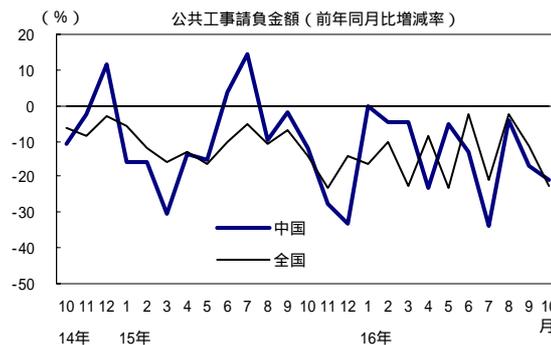
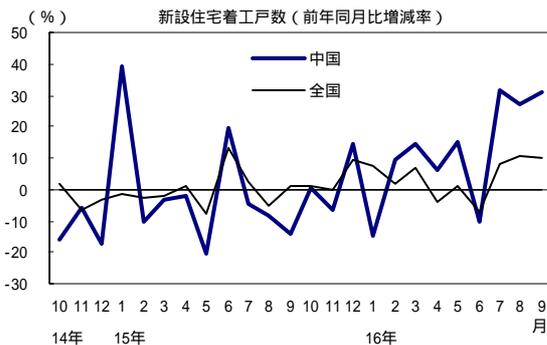
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家と分譲が前年を大きく上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

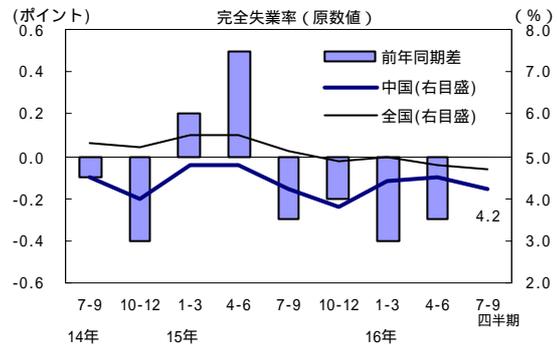
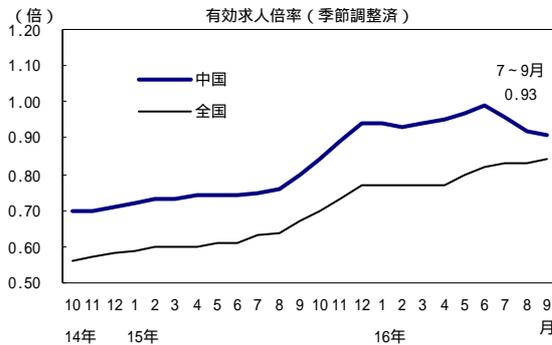


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は基調として改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

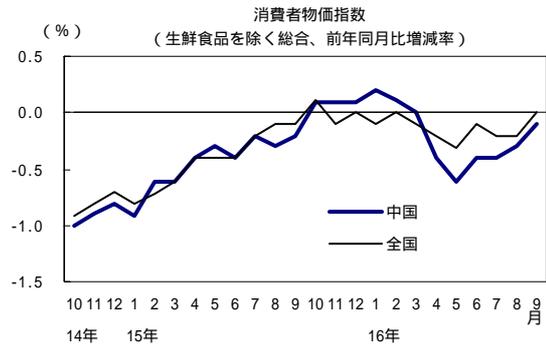
「優良製造業において、現場の製造責任者の考えでは能力のある若い人を正社員として採用して熟練技能者に育てて技術の継承を図りたい考えを持つが、経営トップは派遣社員で人件費削減となる道を選択している(民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月	16年10月
倒産件数	143	140	164	153	56
(前年比)	43.7	40.2	24.4	7.8	5.1
負債総額	331	559	344	404	164
(前年比)	58.2	63.8	59.3	26.9	2.9



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・客単価が、ここ2、3か月前と比べ上昇しているが、台風の影響による野菜価格の高騰により、「ここで食べておこうか」という客による、特にレタスを使用しているサラダへの注文が増加したことが要因である(一般レストラン)

<先行き>

・沿岸部はほとんどの地域において台風の被害を受け、以前の活気はほとんど見られなくなり、いつ戻るか分からない(旅行代理店)

